

授業科目名	新生児集中ケア基礎実習 <i>Neonatal Intensive Care Practicum</i>			担当教員	永松 美雪
開講年次	2年前期	セメスター	3	時間数(単位数)	45(1)
必修選択	専攻領域必修	授業形態	実習	使用教室	
授業の目的	急性期にある新生児のケア(身体的ケア、発達支援、親子関係の促進、授乳支援など)に必要な基礎的能力を養う。新生児集中治療室における、新生児とその家族に必要なケアと周産期医療体制(病院内での他職種との協働や地域関係機関との連携のあり方など)について考察する。				
到達目標	1. NICU 看護の原則に基づき、受け持ち新生児とその家族に対する看護過程を展開できる 2. NICU の役割・機能を理解し、ハイリスク新生児および母親・家族に対する看護者の役割について考察できる 3. 周産期医療体制(他職種との連携、地域の関係機関との連携など)について理解できる				
授業計画	I. 実習目標 1. 軽症の保育器収容児とその家族を受け持ち、看護計画を立案し実施する。 2. 受け持ち事例への面談やコンサルテーションなどに参加し、ケアを多角的に学ぶ。 3. NICU の役割・機能を理解し、ハイリスク新生児および母親・家族に対するケアの特徴や看護者の役割について考察する。 II. 実習方法 1. 実習期間 1週間(5日間) 8月19日～23日(2名)、8月26日～30日(2名)、9月2日～6日(1名) 2. 実習場所 総合病院山口赤十字病院 3. 実習の進め方 ①NICU 看護に関する事前学習を行う。 ②実習施設の概要について調べる。 ③実習目標に従い、担当教員の助言を得ながら実習計画を立てる。 ④実習で使用する記録用紙や評価表の作成をする。 ⑤受け持ち対象児に対する看護過程を展開する。 ⑥受け持ち事例の看護を振り返り、文献を活用しながらレポートにまとめる。 ⑦実施したことを実習目標に沿って適切に評価する。				
学習方法	本科目では、関連科目(新生児学や周産期学、産褥期・新生児のアセスメントとケアなど)での既習知識を押さえておくことが不可欠である。また本実習は、実習生の主体性を尊重する企画型実習であり、学ぶ意識と十分な事前準備が必要である。実習記録は一部を除いて各自で作成するが、実習内容が明確にできる記録の工夫を行うこと。本実習で新生児の健康状態を中心に据えた看護を学ぶことを通して、改めて自らの助産観を深める機会となることを期待する。				
オフィスアワー	金曜日の昼休み、もしくは事前にメールにて(m-nagamatsu@jrckicn.ac.jp;永松)アポイントを取って下さい。				
テキスト	指定しない				
参考文献	新生児学関連科目の図書、文献				
評価方法	事前学習・実習計画(20%)、実習目標の達成度(60%)、レポート(20%)				